

ゲストコラム

◎和歌山県は全国有数の移住母県です。当県から海外への移住は明治初期から始まり、その数は全国第6位で、中南米や北米などの渡航先では、移住者やその子弟により和歌山県人会が結成されています。今回はパラグアイにある和歌山県人会の子弟が当県を訪れました。

(以下、パラグアイ出身の松宮淳さんの感想文を抜粋)

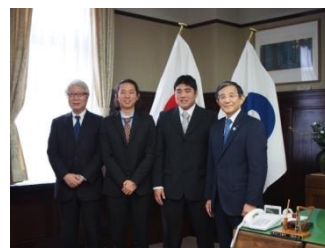
.....
『祖父の和歌山』

(滞在：2018年 1月 26日 - 2018年 2月 16日)

1月30日に和歌山大学へ行って、プレゼンテーションをして、生徒たちといっしょに昼ごはんを食べ、大学を見学しました。僕にとって初めての日本語でのプレゼンテーションで、パラグアイの観光地などについて話しました。

2月2日、祖父の故郷の湯浅町に行きました。その日は祖父が通っていた耐久高校へ行きました。湯浅はとても古い町ですが、すごくきれいで、町長さんに会って祖父が日本を出た頃の昔の話を聞きました。湯浅醤油で醤油の作り方を教わりました。隣の広川町の「いなむらの火の館」にも行き、濱口悟陵さんの偉業について学びました。耐久高校は悟陵さんが作った学校で、和歌山県初の県議会議長だと祖父が言っていたのを思い出しました。世界津波の日は 1854 年に広村に津波が来た日だそうです。高野山では、はじめて雪の積もった景色を見ました。パラグアイでは雪が降りません。一年に2～3日霜の降りる日があるだけです。白い雪と赤いお堂がとてもきれいでした。

10日はWIXASでグローバルセミナーがあり、パラグアイについてのプレゼンテーションをしました。クイズや来てくれた方達と話しをしました。楽しかったです。13日には那賀高校へ行きました。ここで生徒と昼食を食べながら話しました。午後からはプレゼンテーションをしました。15日に仁坂知事、県議会の方々を表敬をしました。



皆様ほんとうに3週間お世話になり、勉強になりました。すごくいい思い出になりました。皆様のおかげで楽しい日を過ごしました。どうもありがとうございました。